

1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0894200013
法人名	有限会社 スズショウ
事業所名	グループホーム『えがお』
所在地 (電話番号)	茨城県結城郡八千代町落田161-10 (電話)0296-48-3555

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年2月28日	評価確定日	平成20年7月14日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 13 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	17人

(2)建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設/単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築/改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	菊山医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々と見渡しの良い農村地域の一角に、広い庭と木々の中に建てられた木造1階建てのホームである。玄関前には花壇やウッドデッキなどの設置もあり利用者が暖かな優しい環境の中、ほのぼのと生活している様子がうかがえる。各居室は広々としており空気清浄機や各居室に対応するエアコンが設置され各利用者の希望する環境設定が可能になるよう工夫されている。また職員にはユニホームなどの設定が無く、利用者と共に生活するケアスタッフとして位置され、利用者がのんびりと自分の時間をめいめいに過ごせるよう工夫されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初回の調査のため、前回の調査による改善点は特にない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価に対し管理者から職員に説明があり、職員が外部評価に対し積極的に関わる姿勢が窺えた。また今回の自己評価に関しては管理者自らが記入し改善点を明らかにすることでケアの向上を意識した取り組みになっていた。今後の外部評価に関して、職員も自己評価など積極的に参加し外部評価をケアの質の向上に役立てて頂きたい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今回の外部評価以前に行われた運営推進会議は、行政、地域住民など多くの参加があったが、家族からの参加同意が得られず、今後の推進会議開催の課題が残された。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見や要望に関しては、面会時職員だけではなく管理者も積極的に家族と関わることで家族からの要望を受け入れられるよう工夫している。今後は、現在の聞き取りによる家族の意見の反映にやや不足があると理解し、家族の意見を更に多く採り入れられるよう推進会議の家族の参加と共に工夫されたい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年間行事やイベントなどを数多く行い地域の住民がより参加しやすくなるように工夫している。しかし現状では、グループホームが地域に認識されていない現状があり、さらなる工夫と啓発活動が期待される。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創立時に管理者と職員間で話し合い、「えがお」実践の理念・基本理念・具体的理念を掲げ、共有空間や事務所など目に付くところに掲示し、独自の理念をケアに生かすよう工夫している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記にある三つの理念の内、具体的理念の5箇条は毎日朝礼時に職員間で唱和し理念に沿ったケアが一日をとおして提供できるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間行事などのチラシを近隣に配布し、近隣住民が気軽に立ち寄れるような雰囲気になるよう啓発活動を行っている。オーナーも地域の自治会等に参加し地元で密着できるよう努力している。また事業所内の大きな浴室を一般開放し地域の高齢者が日帰り入浴など出来るようにする今後の計画もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に対し積極的に取り組まれている。協力体制や職員の積極性もうかがえた。	○	今回の外部評価は初回ということもあり管理者自らが自己評価内容を記入しており、職員への振り返り等にやや希薄さを感じた。今後の調査には、職員のさらなる積極的な参加を促し外部評価をよりケアの向上に役立てて頂きたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今回の外部評価までの期間に一回の運営推進会議が開催されている。	○	行政や地域住民などの参加を頂きながら家族の参加が得られていなかった。今後は、家族参加を念頭にまた多くの出席を得るように啓発活動に努力されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	この地区で最初のホームでもあり、行政との二人三脚で立ち上げた経緯がある。今の状態を維持し、今後も行政との連携を継続して頂きたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に積極的に利用者の現状を報告し、管理者も必ず声をかけ家族の要望や意見を受け容れられるよう心がけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への状況報告を積極的に行い、利用者の状況が家族に理解できるよう心がけている。	○	現状では、家族の意見が聞き取りづらく家族の本音を運営に反映させるにはやや希薄さを感じる。家族会や運営推進会議などを利用し、家族からの意見をさらに受け容れられるよう工夫されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、利用者の混乱等を起こす可能性があるため馴染みの関係を維持できるように職員の異動はなるべく行わない様になっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、外部の研修など積極的に参加している。外部の研修に関しては、費用を会社が負担するなどして職員の負担が軽減するよう配慮し、その後伝達講習会などを開催し、職員の教育に力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流については、今後配慮し職員間または利用者の交流も検討している。	○	地域に数少ない同業者があるが、交流するまでには至っていない。今後は近隣の住民として職員間および利用者の交流を深めていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や環境に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、必ず家族との見学を実施し入居できるよう配慮している。雰囲気や環境の変化に対応できるよう職員も新しい利用者に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活史を理解し、人生の先輩として利用者と接することで自然と教えてもらったり、自立を促すよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活史や経験などを踏まえ希望や意向が実現できるようケアプランなどに反映させ職員間で共有し把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一ヶ月に一回勉強会とケアプランに対する会議を行いケアプランに反映できるように工夫している。	○	今後は、各職員の情報や気づきを積極的にケアプランに反映出来るよう工夫されたい。またプランに反映された計画への記録なども検討して頂きたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの期間に沿った、計画の見直しなどが会議やカンファレンスを通し行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等が面会に来たときなど、宿泊などの希望があれば宿泊が可能になっている。また今後は家族と利用者が長期に滞在できるような場所の設置も考案している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医を基本的には継続し利用している。またかかりつけ医が遠方の場合、送迎なども無料で行っており家族の負担を軽減している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度化終末期の対応に関しての対応例がない。今後は利用者の状況を考慮し、終末期への対応も考慮していく予定がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の情報や記録物は事務所書庫に保管し漏洩の無いよう配慮している。生活面では、利用者の羞恥心やプライバシーの保護を念頭にケアを提供している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や外食など職員の時間に合わせるのではなく利用者の希望を聴き、そこに対応できるよう計画し、実施するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事などの時間も利用者の時間を配慮し、好きなときに食事が出来るよう心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴や食事などは、利用者の入りたいとき食べたいときを優先に提供できるよう配慮している。安全面を考慮し入浴は日勤帯の中ならいつでも入れるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活史や趣味などを把握し、それに応じた役割の提供が出来るよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や、外食など利用者の希望に応じ対応できるよう配慮している。また、個人の買い物などに対しても利用者の希望があれば外出できるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアになっており、内部からの操作により開閉出来るようになっている。	○	玄関や外部に通じる窓などには、センサーや施錠が行われている。利用者の安全に配慮するものとも考えられるが、今後は施錠や拘束への配慮をふまえて検討して頂きたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時における避難訓練や消防署職員を交えての積極的な避難訓練を行っている。	○	大規模災害時など孤立状態でも利用者の安全や生命を保護できるよう備蓄品などの配置を今後検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、外部から栄養価など計算されたものを調理し提供している。また利用者の食事摂取量なども細かく記録に記載している。また健康障害のある利用者に関しては看護師や医師の指示で水分出納の確認を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には利用者の作品の展示や、昔懐かしい看板の写真などを使い、馴染みの環境へ配慮している。また、花壇や生け花など数多く配置し、季節感が味わえるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者のなじみの物を多く設置し、その人らしい生活環境の設定に配慮している。		